

\*26日(火)を予備日としています。15日に都合がつかず、26日の開催を希望する方は、14日(木)中にご連絡ください。

**担当教員** 浅見 泰司 教授・貞広 幸雄 教授・樋野 公宏 准教授 **募集人数** 7名

**所在地** 113-8656 文京区本郷7-3-1 東京大学工学部14号館902号室 **TEL** 03 5841 6259 **Web** <http://ua.t.u-tokyo.ac.jp>

## Q. 解析研とは?

### A. ひとことでいえば、「なぜ?」を「ナルホド!」にする研究室です。

当研究室では、住宅市場や居住者の意識などの**住宅に関する事象**や、**都市で起こる現象**の空間的特性・時間的変化を研究対象としています。得られた結果から、新たに見つかった**因果関係の指摘・将来予測・政策評価や政策提言**を行います。数学やGISの知識は、必ずしも求められません。

何かあれば(なくても)、気軽に研究室にお越しください。

## Q. どのようなテーマがありますか?

### A. 住宅や都市に関するテーマを広範に扱っています。

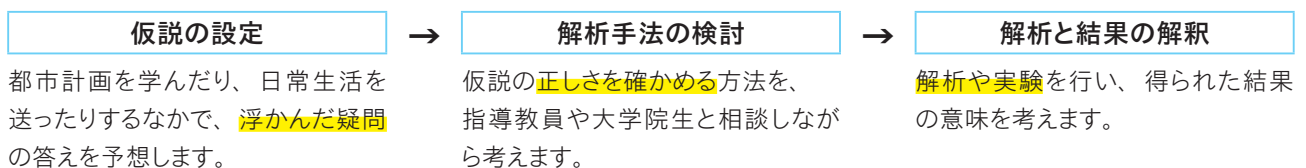
研究テーマは、**個人の興味を反映**して多岐にわたります。

以下は近年の卒論・修論の例ですが、もちろん他の興味をもった方も歓迎します。

<b>住宅市場</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 不動産価格の時間変動</li> <li>▶ 眺望とマンション価格</li> </ul>	<b>ナビゲーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「わかりやすい」道案内</li> <li>▶ コビキタスな都市情報</li> </ul>	<b>政策評価・提言</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 用途地域と土地利用の関係</li> <li>▶ 防災安全性と路地の存在</li> </ul>
<b>住意識</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 住宅地計画と住意識</li> <li>▶ 住宅地の管理運営</li> </ul>	<b>都市解析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 再開発と周辺の商業集積</li> <li>▶ 競合店舗進出の影響</li> </ul>	<b>地域指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 犯罪・事故と安心感</li> <li>▶ 住環境と活動量・健康との関係</li> </ul>
<b>施設配置計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 立ち寄り行動と店舗配置</li> <li>▶ 学区の最適区割り提案</li> </ul>	<b>移動データ分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光・買い回り・転居</li> <li>▶ サッカーの試合データ分析</li> </ul>	<b>都市のイメージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 頭の中の都市空間</li> <li>▶ 都市居住の心理的分析</li> </ul>

## Q. 研究は、どのように進めるのですか?

### A. 疑問から出発し、仮説の検証・解析結果の解釈から結論を導きます。



ときには、仮説とは異なる結果が出てきたり、予想外の発見があったりするかもしれません。必要に応じて、ふたたび仮説を設定して研究を進め、自分なりの結論を導きます。学部生は、11月頃まで**毎週開催される卒論会議**で、進捗を報告します。夏学期中には研究の枠組みを決定し、データの収集・調査に入ります。12月頃には解析作業を終え、1月は本文の執筆を進めます。

## 解析研の特色

### ☑ 豊富な研究設備

研究室では、解析に必要なデータやツール類を豊富に取り揃え、必要なマニュアル類も所蔵しています。データの有無や、ツールを使った解析の方法など、研究室で気軽にご相談ください。

### ☑ 気軽に相談できる環境

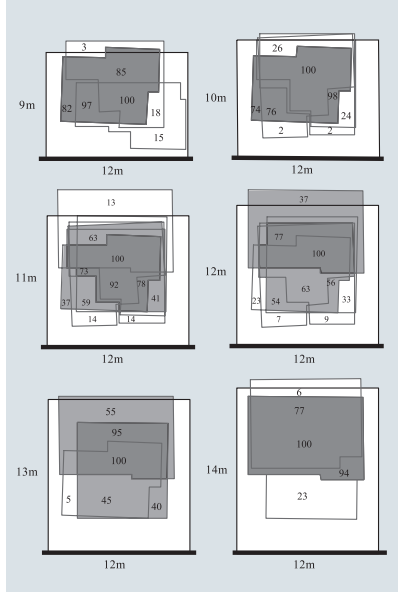
院生室には学部生も出入りでき、研究について自由に議論をすることが推奨されています。

### ☑ 特色あるイベント

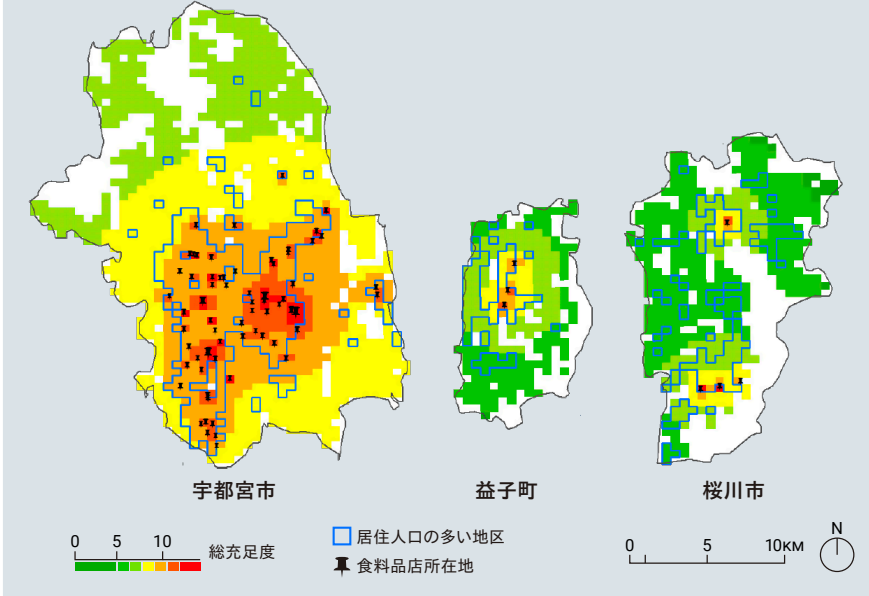
夏学期には、新入生を歓迎するビールパーティとOB・OG会があります。冬学期には忘年会の鍋パーティ、卒業・修了生壮行会など、節目ごとに特色あるイベントが開催されます。各学期ジュリー後に行われる学生有志の打ち上げなど、非公式のイベントもあります。



住宅街における戸建住宅の形状予測  
(Asami & Ohtaki, 2000)



買い物難民の分布地図  
(関口, 2015)



## 解析研を希望するみなさまへ

### 浅見 泰司 教授

生物の営みをシステムとしてとらえると、その合理性と総合性に感嘆させられます。都市の様々なシステムをそのような観点から再構築していきませんか。

### 貞広 幸雄 教授

電子地図やGPSなど、テクノロジーの発達は都市計画の進化に大きく貢献しています。今後更に発達する科学技術を、都市生活にどう活用できるか、一緒に考えてみませんか？

### 樋野 公宏 准教授

人口減少、高齢化を背景として住環境の「安全・安心」がなくなって求められています。空き家対策、高齢者の安心居住、都市防犯などのテーマについて一緒に考えましょう。

### 薄井 宏行 助教

都市計画は、1) 理解したり人に教えることが困難な多くの部分と、2) 客観的に理解し説明できる少しの部分から成り立ちます。一緒に、2) の部分を増やしましょう。